

## 第2回全国理事会報告

去る7月29日（水）に緑に囲まれた東京のオリンピック記念青少年総合センターで第2回全国理事会が開催されました。猛暑の中でしたが全国各地より総勢68名の方々が参集しました。平成27年度の事業経過報告や本大会概要、全国基本調査の報告等が行われました。



### <会長挨拶>

会長 栗飯原 誠

大変暑い中、お集まりいただきありがとうございます。平成27年度第2回の理事会です。前回第1回は駒沢小においでいただきありがとうございました。今回第2回は、会場をここオリンピックセンターに移しまして、行います。大勢の方が集まって大会が行われますが、伊藤実行委員長を始めとして、都難言協の本間会長先生と東京の皆様にはお世話になっております。明日からの大会が充実したものになるようご協力をお願いいたします。

### 議 事

#### ◎事業部報告

研究部：「はじめのいっぽ2015」を平成27年8月3～5日に実施します。希望者が多かったために今回は東京のメンバーとリピーターの先生はお断りしました。研修後各県で充実した研修を実施していただいているという情報を受けています。各地区にふさわしい研修会が開かれることを期待しています。次年度は8月1日から3日、29年度は8月2日から4日を予定しています。

広報部：会報・機関誌の編集、HPには全国夏期研修会「はじめのいっぽ」の報告を掲載します。特集として「全国の教室紹介」を企画していますので、是非ご協力をお願いします。今大会報告は、大会事務局と広報部との共作でHPに掲載します。会報、機関誌が教室に届きましたら、お読みください。

調査・対策部：全国調査へのご協力ありがとうございました。43県の回収ができました。詳細は協議の場でお伝えします。

情報ネットワーク部：4つの基本方針があります。①全難言協やブロックや各地の動きを迅速に通知 ②基本調査の充実（各県のデータの収集） ③リンク集の充実（特総研HPの「ことばの教室ことはじめ」を紹介） ④実践を繋ぐ人材

## データベースの充実

教材の掲載もしていますので、情報やご意見などをお寄せ下さい。

庶務・会計部：負担金納入は808校からいただいています。個人会員13名です。「振り込まれた学校名の明記」と「複数ある地区は自治体でまとめて納入」をお願いします。今年度は設置校一覧を作成します。ブロック代表の先生に名簿を送信しますので、確認して返信をお願いします。

## ◎東京大会について

東京大会実行委員長 伊藤 秀一 先生

ご協力いただきたいこととしてお伝えします。テーマは「輪(つながる)」ですが、「つながること」はどんな実践であっても基盤になることと考えています。縦と横のつながりで切っていくなら、様々な実践をされているどの先生方も共通の土俵として、議論することができると思っています。「アクティブラーニング」ということが次期学習指導要領の中で触れられていると思いますが、これは「主体的学び」です。今回の大会でも、理事の先生方をお願いしたいのですが、参加して、自分だったらどうするだろう、自分だったらここを変えていくという思いをもち、みんなで議論したこと、高め合ったことをお土産として持ち帰っていただきたいと思っています。

<大会宣言文(案)を読み上げ、文言の修正の報告があった>

☆大会宣言文の意見については、理事会として了承された。

大会総務部長：事務連絡があった。参加者は700人を超えています。大会報告書は、冊子では作成せず、広報部と共作で全難言協のHPに掲載します。

## ◎次期全国大会について

島根県大会実行委員長 濱村 洋二 先生

島根大会もあと1年で緊張しています。コーディネーターや分科会も概ね決まっています。大会主題「子供たちが自分らしく暮らしていくための支援のあり方 ～子供との日々の関わりを振り返ることを通して～」ということで準備を進めています。この夏休みの1年後、島根にお越し下さい。

大会事務局長から：「言語発達の課題にある子供の指導・支援から」と「発達障害のある子供の指導・支援から」、「当事者・親・親の会の立場から」、「管理職・行政担当者の立場から」の4分科会の発表者が未定です。是非、各県で声かけをお願いします。

## ◎第46回全国大会について

近畿ブロック代表・奈良県理事 松原 成和 先生

大阪大会は平成29年7月27日・28日に大阪の天満研修センターで開催します。大阪府だけでなく近畿ブロックとして役割分担して進めていきます。8月10日に理事が集まり大阪大会について役割分担を詰めていく予定です。

## ◎第47回以降について

福島大会について：8月10日に東北ブロック理事会を開き福島大会の話し合いをします。8月19日に福島県で研究会があり、そこで大会の打ち合わせをする予定です。

31年度が、東海ブロック三重県です。32年度は中国ブロックで検討中ですが、8月末ブロックの理事会で話し合い、開催地が絞られてくると考えています。33年度は甲信越ブロックで山梨県となっています。

## 協議会

### ◎全国基本調査中間報告（43都道府県からの回答）

調査・対策部 櫻澤

<自由記述>部分のまとめ

#### 1. 各項目のキーワード

##### 【全難言協への要望】

- ・研修テキスト・HPの活用⇒各県での研修に活用、  
各独自の「はじめのいっぽ」開催  
(北海道・茨城・愛知)
- ・情報⇒HPのリンク、「指導」のステップ
- ・行政⇒通級教室設置の遅れ
- ・各地域の担当教諭の相談機関⇒退職教諭の活用
- ・親の会との繋がり⇒NPO法人全国ことばを育む会の存在
- ・指導対象について⇒様々な研修会名

##### 【発達障害の教室との関係】

- ・別の組織、同じ組織など様々な組織と形態
- ・多数の発達障害担当教諭
- ・併用の担当（発達障害と難聴・言語）

##### 【県組織名称】

- ・難言独自組織（多い地方：東北、九州）
- ・特別支援教育連盟通級部会（多い地方：北陸）
- ・発達障害との合同組織（多い地方：東海）
- ・特別支援教育連盟内の難聴・言語部会（多い地方：関東、甲信越）

##### 【課題と対応】

- ・組織⇒実情に合わせた組織作り、組織に属さない学校の出現など
- ・教員・専門性⇒会費の値上げで専門研修会の維持、県難言の基礎講座の実施  
担当希望者の発掘、現場が動くことで県側が動く、県教委の難言専門免許検討、大会開催を機とした研修
- ・行政⇒ニーズに合った教室設置のために設置形態の改善を要望
- ・難聴⇒在籍数が少ない難聴学級の増加で集団指導が難しい
- ・発達障害⇒非常勤講師を配置しているがケース会議や研修への参加が困難、  
ことばの教室の移行の動きがあるが通級児童数を提示し増設を要望  
「言語発達」と「発達障害」の線引きが曖昧になっている
- ・校内⇒児童の多様化により研修の必要性が高まっているので、特別支援部として関係担当教諭たちが研修している

#### 2. まとめとして

全国様々な課題があるのが現状だが、現場の教諭が動くことで県教委が動くケースがいくつか見られた。課題解決には、まず我々教諭が話し合い、工夫して実践を積み重ねていくことが重要であると感じた。

### ◎各県からの情報

青森県、福島県、岡山県、山口県、東京都、茨城県から研修会等の報告があった。